

LA-1250、LA-1350、LA-4350 騒音計

タイマー機能で 24 時間の L_{Aeq} をブロックメモリーへデータ保存する手順

LA-1250、LA-1350、LA-4350 騒音計

タイマー機能で 24 時間の L_{Aeq} をブロックメモリーへデータ保存する手順

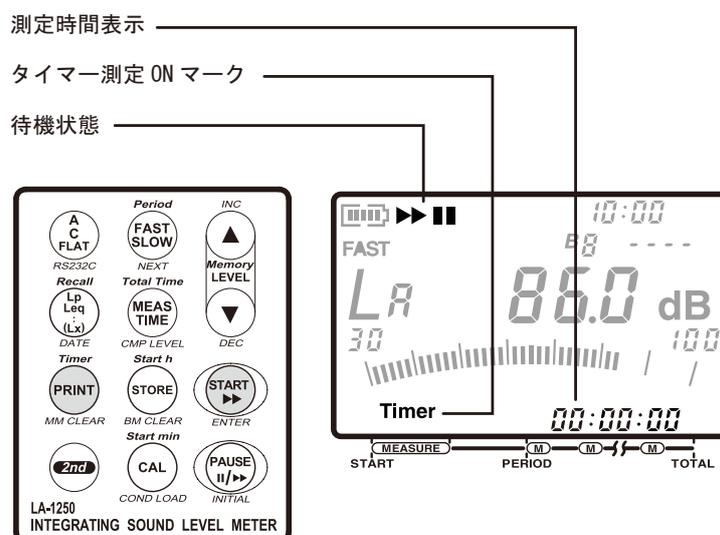
測定条件

次の条件での測定設定手順を示します。

(設定例)

演算値	L_{Aeq}
時定数	FAST
測定時間	10 分
測定間隔	10 分間隔
トータル時間	24 時間
スタート時間	朝 8:00

下図はタイマーON の画面を示します。



操作手順

1. [STORE] ボタンを押しながら、POWER スイッチを ON します。ブロックメモリーがクリアされます。

< 注意 >

Power スイッチの ON だけでは、メモリーはクリアされません。例えば、前回までのデータが B1 に保存されていたとすると、以降の測定データは B2 から保存されます。

2. もう一度電源を OFF し、[PAUSE (INITIAL)] ボタンを押しながら、POWER スイッチを ON します。出荷時の測定条件で起動します。
3. [LEVEL] ボタンで、測定レベルに合わせます。
4. [A C FLAT] ボタンを何度か押し “ L_A ” を表示させます。
5. [FAST SLOW IMP] ボタンを何度か押し、“ FAST ” を表示させます。
6. タイマー測定のための設定を行います。

[MEAS TIME] ボタンを何度か押し、測定時間を “ 00 : 10 : 00 ” (10 分) に設定します。

[2nd] ボタンを押します。“ 2nd ” の文字が表示します。

[Period] (青字) ボタンを何度か押し、測定間隔を “ 00 : 10 : 00 ” (10 分) に設定します。

[Total Time] (青字) ボタンを何度か押し、トータル時間を “ 24 : 00 : 00 ” (24 時間) に設定します。

[Start h] (青字) ボタンを何度か押し、“ 08 : 00 ” を表示させます。[2nd] + [Start h] ボタンで時間を、[2nd] + [Start min] ボタンで分が変更できますので、スタート時間を “ 08 : 00 ” (朝 8 時) に設定します。

[Timer] (青字) ボタンを押し、“ Timer ” 文字を表示させます。この時メモリー番号が “ B0---- ” 表示となっていることを確認してください。

[2nd] ボタンを押し、2nd ” の文字を消灯させます。

7. [START] ボタンを押します。時刻が 08 : 00 になると計測を開始します。設定測定時間の 10 分が経過すると、“ STR ” の文字が一瞬表示され、データが保存されます。この時、メモリー番号が “ B0 0001 ” になっていることを確認してください。その後、10 分間の「測定」 「保存」を繰り返し、24 時間経過すると自動的に計測が終了します。メモリー番号は順に繰り上がり、データ保存されます。

- タイマー測定を開始すると、省電力モードが働きデータ表示は消え、代わりに “ Sleep ” の文字を表示します。
- [2nd] ボタンを 3 秒以上押すと、“ Sleep ” は解除され、画面が表示されます。
- 測定を中止する場合は [START] ボタンを押します。今までのデータは保存されています。

8. 保存データを読み出します。

[2nd] ボタンを押し、2nd ” の文字を表示させます。

[Recall](青字) ボタンを押し、“ RCL ” の文字を表示させます。

[Memory Level] INC/DEC ボタンを押し、メモリ番号が変化します。メモリ番号 “ B0 0001 ” を呼び出すと、記憶された L_{Aeq} データが表示されます。

再度 [Recall](青字) ボタンを押し (“ RCL ” の文字を消灯) と、通常測定モードに戻ります。

< 注意 >

ブロックメモリの同じ番号に、 L_{Aeq} 、 L_{max} 、 L_{pk} 、 L_x の各測定データが保存されています。これを読み出すには、[2nd] ボタンを押し、“ 2nd ” 文字を消灯させ、[L_p L_{eq} (L_x)] ボタンを何度か押します。

9. タイマー測定を抜け (中止し) 瞬時測定に戻る。

[2nd] ボタンを押し “ 2nd ” の文字を表示させ、[Timer](青字) ボタンを押し “ Timer ” 文字を消灯させます。その後、再度 [2nd] ボタンを押し “ 2nd ” の文字を消灯させます。

10. パソコンでメモリーデータを読む

小野測器のHPの「サポート」 「ユーティリティソフトダウンロード」ページより該当するサンプルプログラムをダウンロードし、パソコンにインストールすることでRS-232C通信によりメモリーデータをパソコンに転送しテキスト形式で保存することが出来ます。また、保存したデータはマイクロソフト Excelなどで開くことが出来ます。

以上